九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

ストーリー・マンガの作品を利用した、異文化間理解教育の教材とプログラムの開発

因，京子
九州大学留学生センター准教授

松村，瑞子
九州大学言語文化研究院教授

https://hdl.handle.net/2324/16838

出版情報：日下翠教授中国文学・漫画学著作集成，2008-03
バージョン：
権利関係：

平成17年11月11日（金）
福岡市女性協会主催　アミカス図書室講座

マンガに恋して：少女・女性マンガに現れた、恋・仕事・人生

因　京子（ちなみ　きょうこ）
九州大学留学生センター・比較社会文化学府
chinami@isc.kyushu-u.ac.jp　☎　092－642-2150

概　要
Ⅰ　少女・女性マンガの魅力
　　1．主題の新しさ　主人公、青春、少女の心の奥底
　　2．参加可能性
　　3．独特の表現形式
Ⅱ　少女・女性マンガに現れた「仕事」「男」「人生」
　　1．普通の女のお仕事マンガ：特別の才能はないけれど
　　2．恋こそ命：女の望む男女関係
　　恋愛至上主義者の茨の道『ハッピーマニア』
　　3．普通の女の欲しいもの：これでなくても生きてはいけるけど
　　快い関係の具体像『雲の上のキスケさん』
Ⅲ　少女・女性マンガの読み手として

Ⅰ．はじめに：少女・女性マンガの魅力

1．主題の新しさ：自分を知りたい女の子が読みたいものは？

1－1　人生の主人公である女性

・「主人公」　　「駒子」「すみこさん」「しずかちゃん」

・紅一点のスーパーマドンナはロールモデルにならない。

「いつの時代にも美貌とセックスアピールを売り物にして、男の社会を逆手に取って自分を売っていくマネージメントのうまい女性芸術家がいるものです。しかし、こういう人が10人出ても20人出ても全然枠組みのチェンジは起こりません」（若桑みどり1991、p. 41）

a.運命の中での主体性、大人の恋：
　水野英子『星のたてごと』『白いトロイカ』　池田理代子『ベルサイユのばら』
b.才能を伸ばしていくスーパー少女たち：バレエ、スポーツ、デザイナー、女優、歌手、・・・
c.生きていく普通の少女・女性の生活
　お仕事もの（看護師、女医、会社員）、子育てもの、恋愛もの、家庭問題もの・・
　老人マンガ：松苗あけみ『カトレアな女達』；里中満智子『鶴亀ワルツ』
　かっこよさか、可愛さか：矢沢あい『NANA』

1－2　女の青春ドラマ

「戦前まで、少女のための読み物としては、わずかに吉屋信子の少女小説があっただけであった。さらにいえば、女性の青春小説などはなかった。女に青春などなかったためで

ある。」（日下翠、p.19）
「恋愛は少女マンガで教わった」（横森理香、本のタイトル）
西谷祥子『レモンとさくらんぼ』

１－３　人には理解されない少女の心の奥：少女の感性、不安、悩み
a.どうしてみんな平気で大人になっていけるの・・・
教師：「ねえ、転入生、なぜいつもそう雰囲気が深刻なんです？まるで世界がきょうでおしまいみたいに。」
衣良：「きょうは明日の前日だから、だからこわくてしかたないんですわ」
・・・・
衣良：（さえ子に）「あなただから言うけど、こんなのはちっともおかしくないわよね。でも両親はわからないの。わたしある夜きいてしまったの　なきたいくらい悲しい話よ。わたしをいつか　精神鑑定しようって話しているの　ヒソヒソ声で」
（大島弓子：『バナナブレッドのプディング』pp. 10－11）

b.母が自分を嫌う・・・　萩尾望都『イグアナの娘』

c.恋人・夫は私のことをわかっていない・・
ｃ－１　大好きな彼の描く結婚生活って・・？
「朝起きるとハムエッグかなんかの焼けるにおいがして・・・（中略）僕がうまい夕食とあったかい風呂を楽しみに家路を急ぐと部屋にはぽっかり灯りがともっている・・・・（中略）僕は忙しくても家族の心はいつもひとつだ、あったかい家庭だ」（岩館真理子『うちのママが言うことには』（1巻、p. 23）

ｃ－２　好きな男との暮らしに絶望したくないのよ・・
「きょうアイスクリームを買って食べかけたら、急にトッピングもしてもらいたくなって、食べかけだったけどお店の人に頼んで・・・」（深見じゅん「土曜日の居酒屋」）

ｃ－３　私は家族の何なのよ?
（交通事故で急死した妻の育てていたベンジャミンの鉢植えに家族は見向きもしない。高校生の体を借りてこの世に戻ってきていた妻は、その鉢植えを貰って来てしまう。その晩、夫が高校生のうちに来る）
「私はこういう者です。そしてそこの鉢植えのもと持ち主であります。実は本日、こどもがあれをお宅にさしあげてしまったと聞き、やってまいりました。まことに勝手ながらあれがなくなってみると家が家でなくなるのであります。私と私の亡き妻が育てた木でありまして、いても立ってもいられずこうして恥を忍んでお願いにあがりました。どうか返していただくわけにはまいりませんでしょうか。」
「お返しいたします。さどうぞ、お返しいたします。（*やったやったやったあ、私はこれが知りたかったんだ。これを知ればもう思い残すこと、もうなんにもないっ、もううっなんっにもないっ*）（大島弓子「秋日子かく語りき」pp. 40－41）

d.普通の少女・女性の（女にはないことになっている）夢、欲望
d－1　美女でなくてもできる(報われる)ステキな恋愛

d－2　性愛への興味　竹宮恵子『風と木の詩』　恐怖マンガのあれこれ？
d－3　仕事・出世　　岩館真理子『うちのママが言うことには』北原けいと
深見じゅん『悪女』田中真理鈴
佐々木倫子『動物のお医者さん』菱沼さん

2．開かれた参加可能性
2－1文化の周縁性　　感想文書けって言われないし
2－2書き手の若さ　　わかるもんね、注文つけちゃうもんね、私も描くもんね
2－3娯楽性　　真っ暗な現実をくどくどダメ押しされてもなあ

3．表現形式としての魅力
3－1　静止した象徴媒体のみが達成できる「リアリティ」と「表現性」
3－2　マンガの言語表現の重層性、多様性（特に少女・女性マンガ）
3－3　コマ割の制約と可能性
3－4　きれいな絵の魅力　　ファッション！

Ⅱ　少女・女性マンガに現れた「仕事」「男」「人生」

1．普通の女のお仕事マンガ：特別の才能はないけれど
里中満智子『4階のミス桜子』雑誌編集者の人間模様
逢坂みえこ『9時から5時半まで』職場の十人十色
森本梢子　『研修医なな子』誰が寝たかわからない毛布でとる仮眠
佐々木倫子『おたんこナース』等身大のアンチ・ヒーロー
池谷理香子『MAMA』　スナック経営の母と弁護士志望の娘。
逢坂みえこ『火消し屋小町』男性占有だった分野に出ていく普通の女たち

2．恋こそ命：女の望む男女の関係　（どうしたいのかわかっていますか？）
2－1　ハッピーエンドのその先に：大好きな人との素敵な結婚、「現実への軟着陸」
岩館真理子『うちのママが言うことには』
深見じゅん『ぽっかぽか』
2－2　三高男に望まれなくても：物は手に入る女が欲しい恋人は
望月玲子『タケコさんの恋人』
小川弥生『君はペット』
2－3　恋愛至上主義者の茨の道：本気で恋に生きる覚悟がありますか
安野モヨコ『ハッピーマニア』
重田加代子（真性HM、こんな乱暴なヒロイン前にいたか？）、
フクちゃん（分別もあるHM）、川口貴子（教科書通りにできる「いい子」）
タカハシ（「白馬でなくロバに乗った、王子にならない蟇蛙」）、ためちん（永遠に未完の思い込み男）、大河内（君が僕を好きなわけでしょ）、田嶋（微笑むやさしい鬼）、丸山（幸せにしてくれる仏）、その他多数の男たち

1)くらくらするような恋がしたい。殉教者のような、妥協のない、恋への献身
a. 本当の恋人はどこにいるの？どうしてあたしはひとりなの？こんなの（＝タカハシ）じ

ゃないの、もっとカッコイイ人がいいの、あたしみたいな女の子すきになんかならないカッコイイ男の子」(①, Act1. pp. 34－35)

b.「いつもそばにいて愛し合って、支えあってみつめあってあだきしめあってなきゃ。そーゆー人でなきゃいやだもん」(②、Act10, p. 9)

c.「はっきり言ってオトすのは得意。どーやれば手出してくるか、H に持ち込めるか百も承知！」「それは単なるさせ子だろ)」「そのとおり。しかし違うんだ。あたしはセックスしたいんじゃなくて、彼、彼が欲しい！！」(②、Act15, p. 196)

2）体裁を作らない女の子のかっこよさ、しんどさ。

a.「そんなことばっか言ってないで、男がいつもそばにいてやりたいって思うよーな女になれっつーの。考えてみたことある？」
「・・・ない」(②、Act10, p. 10)

b.（そばにいてやりたくなる女とは)「1かわいい女、2弱い女、3病気の女、4仕事のできない女」 (②、Act10, p. 22)

3)「ブスでもけなげな女」は本当に報われるのか？教訓の本質は？
とことん「誠意を尽くして」「根負けさせる」女。男の気の弱さに徹底的に付け込む「川口貴子」は悪い女か？こんな女に幸せは来るか？

4)自活する女の現実：食べていくのは戦いだ。

5)自己分析ができてもそれだけで解決にはならない。しかしそこから始まる。

a.「あ、わかった、あの子は、自分を殴ったりののしったりする人がスキってことだ。同じ、同じだ　あたしも・・・それが好きな限り幸せはない」(③、Act21, pp. 64－65)

b.（カヨコちゃんが勝手にそう[=オレはやさしくて才能があると]思い込んでるおかげで俺は苦しまなあかん、おかげで俺は書けんよーになって・・)「聞き覚えのあるセリフ。あたしとためちんは同じだ。超勝手につっぱしってぶっとばしていいとこ見せようと無理して、疲れたら相手のせいにする」(⑤、Act20, pp. 33－35)

6) それでも結婚する

a.「永遠の愛なんて誓えないよ、浮気するかもしんない・・」「本当はこの世の誰もそんなの誓えない。今愛していればいいから」(⑥、Act62, 308－310)

b.「彼氏ほしい・・・ふるえるほどのしあわせってどこにあるんだろう。これからもそれを探していくのかな」(⑥、Act62, pp. 314－316)

ふるえるほどの恋は見つからないかもしれないという苦い認識。 「結婚」も安定・安全の保証ではないという苦い認識。 同時に描かれる、コミットメントのある特定の関係への希望

「暴走する女、ひたすらついていく男」
「結婚制度というようなものは、子供を育てるためにある制度だと思いますのね。・・(中略)・・もっとも子供のことはヌキにしても、男と女、気の合った者同士で、そういう制度がなくなりましても、二人で棲む形は残るかもしれません。」
大庭みな子『性の幻想』(p. 26、吉本隆明との対談)

3. 普通の女の欲しい幸せ
鴨居まさね『雲の上のキスケさん』
真面目で融通の利かない頑張り屋の女が見つけた幸せ。

1）女性にとって（男性にとっても？）快い男女関係
1)－1　不器用な健気さ、正直さ、率直さ、知性を評価する男：
こんなことをちゃんとわかって、いとしいと思ってくれるなんて！！不器用なきまじめさの持つ愛らしさとおかしみをこよなく愛するキスケ♥♥

a.大家のおじさん「地べたっからな、真っ黒い雲が見えるんよのう、しっかしその雲を上っ側から見りゃあ太陽の光が当たって銀色に輝いとるんよの」――「日光アレルギーの人間に、君にも太陽がついているから元気出せなんて、そりゃねーだろって。・・
ああ、オモシロイなカワイイな、このおかしさはいとしさだ。俺はもう大丈夫、今の俺の笑いには愛がある。もうヒクツじゃない。」（1巻、Part 1，pp. 44－46）
b.眉子「悲しいほどおもしろくも何ともない女なんだから！」・・・・「どこが何にもないんだよ。今日も昼間の何時間かだけでそんなにいろいろあるんじゃない。」
c.「(おねーさん、好き嫌いあるかい)」「あ、雑食です。」「わはは・・」
d. 「二つ折厳禁」のハンコというプレゼントへの反応(3巻、Part 7, p. 37－39)
e. 相手の本質をさくっと言い当てる眉子、それを喜ぶキスケ（2巻、Part4, p. 11）
f. 心の傷に敏感：「別にどんな乳でもいいんだけど・・(多きいい胸に)コンプレックスもってたから（大きい胸が好きだと言い続けた」（2巻、Part 4.p. 10）
男性に対する女性の偏見「男は大きい胸が好き」に対する抗議でもあろう。
g.肉体の欠点を受容する： 吹き出物が出ても気持ち悪がらない（2巻、Part4, p. 19－22）

1)－2　性愛の意義の認知と肯定
上品ぶりっ子するのは（させるのは）卑猥より下品だというスタンス
a.「知らん顔して仕掛けさせる」女の手管を恥ずかしいと感じる感受性（Part2, p.110 ）
b.のびのびと、性的存在でいさせてくれる男（Part3、p. 130）
c.性愛は性交だけではない：爪がいたい（Part3、p. 144）

2)フェミニズム的視点：女という性の負わされてきた重荷。加害者としての女性の姿。
高校生必読図書に指定すべき。

2)－1 普通の男の限界：善良で誠実でも、普通の男にはぶりっこしない女は持ち重りする。
a.「そりゃ、お前に営業をすすめたのはオレだけど、ここまでやるなんて。まさか若手No.1 のオレをぶっちぎるような女になるとは思わなかったよ。オレはそれくらいの男なんだよ。」「家庭って仕事を離れて許される場だろ。オレは、許されたいよ。弱いっていわれてもな」（1巻、Part1. pp. 6－10）
瑛は食べ方の細かいところにケチつける。男女のステロタイプの逆転現象。
b.実の父親（3巻、part9）　妹も弟も殴らないのに眉子だけ殴った父。

2)－2　女（特にその sexuality）への男の攻撃・女の攻撃、女自身による冒涜の姿
a 発達した胸に露骨な興味を示す男、接待の席の男、グローバル岩田

b.性的攻撃の破壊力（酷い虐めに泣かない眉子も、性的攻撃には声が出せない）♥♥♥
　　される側は本当に声が出ない。百万言を弄するよりも説得力のある描写。
c.小学校の保健の教師
　　「んもォ石井さん、今からお色気じゃ困るわねェ。自分をしっかり持ってね、だらしない人生送らないように。」（Part1, pp. 40－41）
d.包帯女　弱さを保身に、甘えを武器に使うという冒瀆

2)－3：無理解は虐待
（前に眉子が見たけど買わなかった重い便利鍋を喜ぶと思って買ってきたキスケ）
「あたしやおばちゃんがこのお鍋使うとどうなるか、想像つかないわけ？体験がないからわからない？じゃあいっぺんゴハンくらい炊いて見たら？！」「あの～、ここまで怒られる意味がわからないのですが？？？」「わからないことそのものに怒ってんのよ！・・・おばちゃんは、キスケさんがおもっているよりずっと弱くなってる。水道の水を止めるだけでも大変だし、足腰だって・・・今のおばちゃんには重たい高級鍋よりぺらぺらのアルミ鍋の方が助かるのよ。お金があるなら、蛇口をこういうレバー式のに替えてあげて。ずいぶんラクだから」（5巻、Part17, pp. 70－77）★★

3）*女の人生における愛の絶対性の否定*：なくても生きていける、だからこそ
a.仕事への集中が必要なときには恋愛はお休み（第3巻、Part 7, pp. 19－20）
「しばらく仕事だけに専念することにしたわ」
b.「キスケさんと会わずに仕事に打ち込む日々がしばらく続いている。気持ちがつながっているという自信があるからこそ出来たことだが、*ふと思うのだ。あたし、このまま、キスケさんがいなくても生きていけるかも・・・」*
（と思ったりしていた眉子は、最も根源的な自分の心の傷を思い出させられ、キスケに会いにいく。わけも言わずに、泣きながらキスケにしがみつく眉子）
「今日、もう、人恋しい時間はすべてオレに抱きつけ！食事中でもトイレ中でも・・けど、抱きつこうにもこれじゃ（＝日焼けしている）痛いよな。こっちからさわっても痛くないのってどこ？」
「痛くってもいいってば・・」★★
この人がいなくても生きてはいける。この人がいなくたって、生きてはいけるんだけど・
（第3巻、part 9）

「キスケさんがいなきゃだめ！」とならないすごさ！
徹底した、依存の否定

自分の欲しいものを自覚できる知性 依存を拒否する意志

Ⅲ．少女・女性マンガの読み手として：イメージを読む力。読んだことを伝える力。

1．「高尚さ」という毒薬
a.小説の閉塞感

「夢の代わりに絶望を描き、希望も発展も、明るい未来も描くことができない。
純文学は今、否応なしにそういうむつかしい状況に置かれているのである」
（日下 2000、p. 18）
「このところ私は一年に数冊しか小説は読まない。数冊読むその小説は、海外のものや明治のもので、日本の現代小説は 5 年に 1 冊も読むだろうか。なぜ日本の現代小説を読まないかというと、全然面白くないからである。」（呉智英 2002、p. 18）

b.「マンガの私小説化」マンガよ、おまえもか・・・？
紡木たく『瞬きもせず』について
「勝手に心臓とくんとくんしてろ！」（高橋源一郎 1992、p. 313）
「なるほど、欠点はない。文章（表現）は抜群に巧い。しかし何も面白くない。純文学を読むときの、あの無力感（なんでこんな面白くないものをよまなければならないのかというむなしい気分）に似ているのだ」（日下 2000、p. 31）

2．マンガ研究の蓄積を：
マンガという芸術形式の可能性への正当な評価
マンガ作品研究、作家研究
マンガという芸術形式と社会、文化との関わり
応用マンガ学?

引用・参考文献

大塚ひかり(1997)『源氏の男はみんなサイテー』ちくま文庫
大庭みな子（1989）『性の幻想』河出書房新社
日下翠（2000）『漫画学のススメ』白帝社
日下翠編（2005）『漫画研究への扉』梓書院　（1200 円、内容充実、お買い得！）
小嶋優子（1991）「恋愛したい、でもどーして」『恋をしない女たち』（別冊宝島 139、JICC 出版局）
呉智英（1997）『現代マンガの全体像』双葉文庫
_____（2002）『マンガ狂につける薬』メディアファクトリー
斉藤美奈子（1998）『紅一点論』ちくま文庫
高橋源一郎（1992）『文学がこんなにわかっていいかしら』福武文庫
荷宮和子(1994)『少女マンガの愛のゆくえ』光栄
_____(1996)『手塚漫画のここちよさ』光栄
_____(2004)『なぜフェミニズムは没落したのか』中公新書　ラクレ
橋本治（1984）『花咲く乙女たちのキンピラゴボウ』河出文庫
横森理香（1996）『恋愛は少女マンガで教わった』クレスト社
若桑みどり（1991）『もうひとつの絵画論』松香堂
_____（2003）『お姫さまとジェンダー』ちくま新書４１５

因京子
（2001）「マンガを用いた日本語教育の視点と方法」『韓日言語文化研究』第 2 巻
（2003）「マンガに見るジェンダー表現の機能」『日本語とジェンダー』第 3 号
（2004）「ジェンダー表現の機能」『言葉のからくり』英宝社

(2004)「マンガ読解に見る韓国人学習者の日本語理解」『韓日言語文化研究』第5巻
(2005)「女性語のゆくえ：絆として鎧としての女性語の可能性」『言語文化叢書 XV ：言語と文化のジェンダー』九州大学大学院言語文化研究院
(2005)「マンガで学ぶ日本語：マンガを使った日本語教育の可能性」『漫画研究への扉』梓書院

マンガの作品

水野英子『星のたてごと』1，2　講談社漫画文庫
池田理代子『ベルサイユのばら』
松苗あけみ『カトレアな女達』白泉社文庫
里中満智子『鶴亀ワルツ』小学館ビッグコミックスゴールド
矢沢あい『NANA』
大島弓子『バナナブレッドのプディング』集英社
萩尾望都『イグアナの娘』小学館
岩館真理子『うちのママが言うことには』①②(1999)YoungYou 特別企画文庫、集英社
深見じゅん「土曜日の居酒屋」『ポートサイドストーリー』講談社
大島弓子「秋日子かく語りき」『秋日子かく語りき』角川書店
里中満智子『4階のミス桜子』上・下　双葉社文庫
逢坂みえこ『9時から5時半まで』1・2・3　YoungYou 特別企画文庫、集英社
森本梢子『研修医なな子』1～7　YOU 漫画文庫、集英社
佐々木倫子『おたんこナース』小学館
池谷理香子『MAMA』Ⅰ、Ⅱ　集英社
逢坂みえこ『火消し屋小町』1～4　小学館
深見じゅん『ぽっかぽか』
望月玲子『タケコさんの恋人』1～6　講談社漫画文庫
小川弥生『君はペット』講談社（今13まで）
安野モヨコ『ハッピーマニア』1～6　祥伝社コミック文庫
鴨居まさね『雲の上のキスケさん』1～5　集英社